

# 市の考えを問う 一般質問

6月19日・20日・21日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



**Q** 誰一人取り残さない  
重層的支援の構築を

やまなか  
山中 基充 議員



**A** ニーズなどを分析し、検討を進める

市は、地域福祉計画などで包括的支援体制をうたっているが、具体的な実施事業である重層的支援体制の構築には至っていない。

市は、地域福祉計画などで包括的支援体制を構築し、実施をするために、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援の3つの支援を一体的に実施すること。

**問** 包括的支援体制とは。

**答** 個人や世帯の生活課題を把握し、専門職や地域が連携して解決を目指す体制である。

**問** 重層的支援体制整備事業実施計画や支援会議の整備を。

**答** 高齢者、障害者、児童、生活困窮者などの分野ごとに関係機関及び多職種が連携して支援に努めているが、制度のはざまに陥ったり、本人の同意が得られないために支援が進まないことがある。支援会議や重層的支援体制整備事業実施計画の策定に向けて、本市の現状とニーズを分析し、関係機関とともに包括的な支援体制づくりの検討を進めていく。

**問** 重層的支援体制整備とは。

**答** 社会福祉法の改正で創設された事業で、円滑に包括的な支援体制を構築し、実施をするために、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援の3つの支援を一体的に実施すること。

**問** 若者が希望を持てる社会経済環境こそ自然増のカギでは。

**答** 国は異次元の少子化対策などで財源の保障も含めて検討をしている。市も国の方策を注視し進めていく。

**問** 市の人口動態は。

**答** 出生数は、平成2年度で665人である。平成18年度の702人をピークに、令和4年度の出生数は、413人である。合計特殊出生率は、平成5年に1・52、平成8年まで1・4台。平成23年から平成26年までは1・1台に低下したが、平成27年には1・30となり、以後おおむね1・2台で推移し、令和3年は1・15である。

**問** 少子化対策は、自然増を目指すのが肝心ではないか。

**答** 自然増及び社会増の両輪を柱として対応することが大切である。

**問** 地方創生人口ビジョンは達成できているか。

**答** 令和5年5月1日の市の人口は7万109人で、人口ビジョンによる目標人口の推計6万9320人に対して789人上振れしており、達成している。

**問** 出生率、出生数との関連は。

**答** 目標人口上振れの原因は、社会増、転入増によるものである。自然増減は減少している。



- ◎その他の質問
- 一 終活相談、ご遺族支援を
  - 二 带状疱疹ワクチン接種助成
  - 三 若葉駅西口をキレイに

**Q**

若者が希望を持てる  
鶴ヶ島に

おおた ただよし  
太田 忠芳 議員



**A**

市が単独で社会経済問題に  
対応するのは難しい